

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記） 中国文学科定員が100名から70名に変更した2017年度入試において、定員未充足が改善されたかどうか検証する。

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準5	学生の受け入れ【自己評定A】
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
評価の視点	求める学生像の明示
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
	障がいのある学生の受け入れ方針
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
評価の視点	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
評価の視点	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
点検・評価項目(4)	5-4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。(教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日)

【点検・評価項目ごとの現状説明】

5-1	文学部は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成と実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、5学科において学んだ専門を生かし、社会に広く貢献できる人材を育成するために、下記のような人物を求める。 1. 日本文学科・中国学科・英米文学科・教育学科・書道学科の5学科において、それぞれの専門を学ぶことのできる基礎学力を有する人 2. 人文諸科学への関心を幅広く持ち、あらゆる課題や疑問に取り組んでいこうとする人 3. 歴史上、人間が築いてきた良き伝統や優れた芸術を尊び、後世に伝えていこうとする人 4. グローバルかつ多様な現代にあって、人間や世界は本来どうあるべきかについて考えていこうとする人 5. 自らの教養を深め、他者と協力して良き社会を作るために努力していこうとする人
5-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 学生の受け入れ方針の策定について【○】 具体的事例：平成30（2018）年度歴史文化学科開設に伴う文部科学省への届出申請と、全学教務委員会の3つのポリシーの見直しを踏まえ、文学部教務委員会において検討を行っている。
5-2	「高大接続（入試）」体制の整備として学生募集（志願者数拡大）に関する事業について、日本文学科では高等学校から依頼される模擬授業への教員の派遣。英米文学科では、高校生翻訳コンテストの開催。指定校への訪問（20校）。教育学科では、学科指定校への定期的訪問による情報交換。書道学科では、在学生の出身校、卒業生の勤務校など、書道教育を通じたつながりを活用した戦略的な高校訪問の実施。など、適切に行っている。
5-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 学生募集方法、入学者選抜方法について【○】 具体的事例：継続して各学科協議会において慎重に審議し決定している。 (2) 入学者選抜において透明性を確保するための措置について【○】 具体的事例：継続して各学科協議会において慎重に審議し決定している。

5-3	<p>在籍学生数の管理については、各学科協議会で年度ごとの入学者受け入れ数を設定し、教授会における合否判定において、過去の入学手続き率、入学定員超過率等を勘案しつつ、適正に行っている。2013～2017 年度入試の入学定員に対する入学者数比率（入学定員充足率）の学部平均は 1.12 倍で、適切である。学科別では、日本文学科が 1.08 倍、中国学科が 1.13 倍、英米文学科が 1.10 倍、教育学科が 0.96 倍、書道学科が 1.07 倍で、中国学科が 2014 年度と 2015 年度に定員未充足である。2017 年 5 月 1 日現在の学部の収容定員に対する在籍学生数比率（収容定員充足率）は、1.06 倍で、適切である（d1-表 4、B5-22 d2-表 33）。また、2017 年度より、中国学科は中国文学科として定員を 100 名から 70 名に、教育学科は 110 名から 120 名に変更した。</p>
5-3	<p><b>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</b></p> <p>(1) 収容定員に対する在籍学生数比率について【○】          具体的事例：「不交付となる入学定員超過率」が平成 30 年度以降 1.10 倍以上になること、さらに平成 30 年度に新学部新学科が開設予定であることに鑑み、文学部主任会議を数回開催し慎重に取組んだ結果、平成 29（2017）年度入試においては、文学部定員 530 名に対し入学者数（合計）563 名で、定員数に対する比率は 1.06 であった。この入学者数は、平成 28 年度入試における入学定員充足率 1.18（650 名入学）に比すれば、収容定員に対する在籍学生数比率を押し下げる、良い結果となっている。</p> <p>(2) 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応について【○】          具体的事例：五学科の定員に対する入学者数は次の通りの結果となった（平成 29 年 5 月 1 日現在）。          日本文学科 162 名（1.08）、中国文学科 79 名（1.13）、英米文学科 143 名（1.10）、教育学科 115 名（0.96）、書道学科 64 名（1.07）。中国文学科が定員を 100 名から 70 名に減員したことは良かったが、教育学科が 110 名から 120 名に 10 名増員し結果として定員割れになったことは、次年度以降の入試において対応を考える必要がある。</p>
5-4	<p>学生募集と入学者選抜の適切性については、全学の入学試験委員会での審議を受けて、学部長と各学科主任が協議した後、学科協議会および学部教授会で審議し、定期的な検証を行っている。検証結果は入試委員会に報告され、他学部・学科の関連事項とともに審議される。また年度ごとの自己点検・評価でも検証が行われる(B5-11)。</p>
5-4	<p><b>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</b></p> <p>学生募集および入学者選抜の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】          具体的事例：</p>

【効果が上がっている事項】

5-1	
5-2	
5-3	
5-4	

【改善すべき事項】

5-1	
5-2	
5-3	<p>2017 年度入試において、厳格に入学者数を管理する必要がある。</p> <p>2018 年度入試において、厳格に入学者数を管理する必要がある。</p>
5-4	<p>検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて制度設計する必要がある。</p>

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～2018)	5-3 適切な学生定員について、今後、速やかに大学当局と協議する必要がある。ただし、学部学科再編問題とも絡むことであるため、一学部のみでの判断で実施可能なことではない。	入学定員を適切に維持する。一定の学力水準を保つため適切な入学者選抜試験を実施する。	→			A	A	
	5-4 検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて制度設計する必要がある。	5-4 文学部主任会議・文学部教務委員会において検証に関する制度設計を議論する。					C	
16 年度目標	5-3・学長より「学科学生定員の変更についての要請」を受け、日本文学科、中国学科、教育学科が議論を重ね、回答を提示する。	左記の三学科が、要請に対する学科協議会の審議を経て、教授会に報告する。			A			

	・2017年度入学試験において定員管理を厳格に行う。	・入学定員を適切に維持する。
17年度 目標	(対象期間は2017年4月～2018年3月) 5-3 2018年度開設予定の文学部歴史文化学科入学試験を含め、文学部全体の定員管理を厳格に行う。	5-3 入学定員を適切に維持する。

			A	

## IV 評価専門委員所見

5-3【現状】学部定員について、28年度に比して在籍学生数比率を押し下げる結果となったことは評価できます。ただし29年度に定員を変更した学科については、今後、適正な定員管理を期待します。

5-3【現状】学生募集および入学者選抜の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて制度の再考を期待します。

## V 所見への対応

--

## VI 次年度への課題

特になし
------

## 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A5-1 大学案内「CROSSING2016」 <<既出>>A1-6

A5-2-1 2015年度 大東文化大学 一般入学試験要項

A5-2-2 2015年度 外国人留学生募集要項[学部生]

A5-2-3 2015年度 社会人特別選抜試験要項

A5-2-4 2015年度 編入学試験要項（3年次編入）（2年次編入）

A5-2-5 2015年度 科目等履修生募集要項

A5-3-1 推薦入学試験要項【公募制推薦/自己推薦(前期)(後期)】

A5-3-2 2015年度 指定校推薦入学試験要項

A5-3-3 2015年度 大東文化大学第一高等学校推薦入学試験要項

A5-3-4 2015年度 工学院大学附属高等学校推薦入学試験要項

A5-3-5 2015年度 スポーツ推薦入学試験要項

A5-6 大東文化大学学則 <<既出>>A1-1

B5-4 大東文化大学入学試験委員会規程

B5-6 大学HP入試情報 <http://www.daito.ac.jp/admission/index.html>

B5-11 大学ホームページ（自己点検・評価活動）  
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html> <<既出>>B1-16

B5-21 大学ホームページ（情報公開）<http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html>  
<<既出>>B1-6

B5-22 大学データ集 <<既出>>B1-22

<大学基礎データ>

d1-表3 学部・学科、大学院研究科、専門職大学院の志願者・合格者・入学者の推移

d1-表4 学部・学科、大学院研究科、専門職大学院等の学生定員及び在籍学生数

[追加資料]
--------